

2-7. 血液検査の実施施設はどこですか？

N = 464

項目名	施設数	%
自施設	116	25.0%
衛生研究所	63	13.6%
外部委託	312	67.2%

2-8. 使用している検査法と検査試薬名を教えてください。

N = 464

項目名	施設数	%
迅速検査	80	17.2%
通常検査	324	69.8%
迅速検査+通常検査	29	6.3%

2-9. 検査結果の通知方法を教えてください。

N = 464

項目名	施設数	%
対面	413	89.0%
電話	23	5.0%
郵送	106	22.8%

2-9-①. どのタイミングで通知しましたか？

N = 413

項目名	施設数	%
即日	68	16.5%
1週間後	170	41.2%
2週間後	142	34.4%
3週間後	2	0.5%
その他	38	9.2%

2-10-① 専門病院への紹介は？

N = 464

項目名	施設数	%
あり	359	77.4%
なし	34	7.3%
その他	68	14.7%

2-10-② 特定の提携病院は？

N = 464

項目名	施設数	%
あり	26	5.6%
なし	405	87.3%
その他	14	3.0%

2-10-③専門医に紹介後、受診したことがあるフィードバックは？

N = 464

項目名	施設数	%
あり	164	35.3%
なし	232	50.0%

2-11. 対応に困った事例はありますか？

N = 464

項目名	施設数	%
あり	31	6.7%
なし	427	92.0%
無効回答	6	1.3%
合計	464	100.0%

2-12. 肝炎ウイルス検査の際に参考にする検査相談のマニュアルはありますか？

N = 464

項目名	施設数	%
あり	144	31.0%
なし	310	66.8%
無効回答	10	2.2%
合計	464	100.0%

3. 平成25年7月28日は第2回日本肝炎デーでしたが、何かイベント等は実施されましたか？

N = 480

項目名	施設数	%
実施した	79	16.5%
実施しなかった	399	83.1%
無効回答	2	0.4%
合計	480	100.0%

保健所における肝炎ウイルス検査に関する調査

このアンケートは、保健所における肝炎ウイルス検査の実情を把握し、今後の肝炎ウイルス検査のあり方とその質の更なる向上の参考とするために実施しております。ご協力をよろしくお願いいたします。なお、一つの保健所が複数の保健センターを管轄する場合にはこの用紙をコピーして頂き、施設毎にアンケートにお答えいただくようお願いいたします。(アンケート集計結果は毎年、研究班の報告書としてまとめ報告するとともに、学会・学会誌等に発表します。原則として発表データは集計結果のみを使用し、個別の保健所が分かる形では、特別に許可を得た場合を除き公表することはありません。)

保健所名: _____ 所属: _____
 連絡担当者名: _____
 職種: 1. 医師 2. 保健師 3. 事務 4. その他(_____)
 連絡先: TEL _____ FAX _____ E-mail _____

1. 貴保健所の管轄地域内の人口を教えてください。 _____ 万人
 2. 特定感染症検査等事業の肝炎ウイルス検査事業を保健所(自施設)で実施していますか?
 (1. 実施している 2. 実施していない → (1. 緊急肝炎ウイルス検査事業を実施 2. その他(_____)))

実施していない方は設問3へ進んでください

2-1. 実施している検査事業を教えてください。

(1. B型肝炎 2. C型肝炎)

2-2. 検査対象者の年齢、居住地、受検経験等の制限はありますか?

①年齢制限 (1. なし 2. あり)

対象年齢を教えてください (1. 16歳以上 2. 40歳未満 3. 16~40歳 4. その他(_____))

②居住地制限 (1. なし 2. あり(具体的に _____))

③受検経験による制限

(1. 未受検者のみ 2. 2回目以降の受検も可 3. その他(具体的に _____))

④氏名について (1. 実名記載が必要 2. 匿名も可 3. その他(_____))

2-3. 検査頻度と日時を教えてください。

(例) 定期検査: _____ 月 _____ 曜日/月 _____ 回 受付時間: _____ 9:00 ~ _____ 11:00 HIV検査と一緒に (① はい 2. いいえ)

定期検査①: _____ 曜日/月 _____ 回 受付時間: _____ : ~ _____ : HIV検査と一緒に (1. はい 2. いいえ)

定期検査②: _____ 曜日/月 _____ 回 受付時間: _____ : ~ _____ : HIV検査と一緒に (1. はい 2. いいえ)

定期検査③: _____ 曜日/月 _____ 回 受付時間: _____ : ~ _____ : HIV検査と一緒に (1. はい 2. いいえ)

イベント検査①: _____ 曜日/年 _____ 回 受付時間: _____ : ~ _____ : HIV検査と一緒に (1. はい 2. いいえ)

イベント検査②: _____ 曜日/年 _____ 回 受付時間: _____ : ~ _____ : HIV検査と一緒に (1. はい 2. いいえ)

2-4. 予約は必要ですか? (1. 必要 2. 不必要)

2-5. 受検者の費用負担はありますか?

(1. 無料 2. 有料)

2-5-①. それぞれの費用を教えてください。

(1. B型肝炎 _____ 円 2. C型肝炎 _____ 円)

→次ページへつづく

2-6. 検査数を教えてください(平成 24 年度および平成 25 年 4~12 月)。

平成 24 年度: B 型肝炎()件・C型肝炎()件

→うち HIV 検査と一緒にを行った肝炎検査数は? B 型肝炎()件・C型肝炎()件

平成 25 年 4~12 月: B 型肝炎()件・C型肝炎()件

→うち HIV 検査と一緒にを行った肝炎検査数は? B 型肝炎()件・C型肝炎()件

うち陽性数を教えてください(平成 24 年度および平成 25 年 4~12 月)。

平成 24 年度: B 型肝炎()件・C型肝炎()件

→うち HIV 検査と一緒にを行った肝炎陽性数は? B 型肝炎()件・C型肝炎()件

平成 25 年 4~12 月: B 型肝炎()件・C型肝炎()件

→うち HIV 検査と一緒にを行った肝炎陽性数は? B 型肝炎()件・C型肝炎()件

2-7. 血液検査の実施施設はどこですか?

(1. 自施設 2. 衛生研究所 3. 外部委託 (委託先))

2-8. 使用している検査法と検査試薬名を教えてください。

①検査法は? (1. 迅速検査 2. 通常検査 3. 迅速検査+通常検査)

②検査試薬名は? (B 型肝炎:) (C型肝炎:)

2-9. 検査結果の通知方法を教えてください。

(1. 対面 2. 電話 3. 郵送)

→2-9-①. どのタイミングで通知しましたか?

(1. 即日 2. 1週間後 3. 2週間後 4. 3週間後 5. その他 ())

2-10. 陽性時の対応について教えてください。

①専門病院への紹介は? (1. なし 2. あり 3. その他())

②特定の提携病院は? (1. なし 2. あり 3. その他())

③専門医に紹介後、受診したことのあるフィードバックは? (1. なし 2. あり)

2-11. 対応に困った事例ありますか?

(1. なし 2. あり (具体的に:))

2-12. 肝炎ウイルス検査の際に参考にする検査相談のマニュアルはありますか?

(1. なし 2. あり (具体的に:))

【すべての保健所の方がお答えください】

3. 平成 25 年 7 月 28 日は第 2 回日本肝炎デーでしたが、何かイベント等は実施されましたか?

(1. 実施しなかった 2. 実施した (具体的に:))

4. 肝炎ウイルス検査事業を運営する上で、問題点や課題等がありましたらご記入ください。

[]

5. 保健所等における肝炎検査マニュアルを作成中です。その Q&A の項目に加えたい質問項目がありましたらご記入ください。

[]

ご協力ありがとうございました。

2. 保健所等における肝炎ウイルス検査の広報に関する研究

研究分担者	佐野貴子	(神奈川県衛生研究所)
研究協力者	岡部英男	(神奈川県衛生研究所)
	大野理恵	(神奈川県衛生研究所)
	近藤真規子	(神奈川県衛生研究所)
	杉浦太一	(株式会社 CINRA)
	村田一素	(国立国際医療研究センター肝炎・免疫研究センター)
	今井光信	(田園調布学園大学)
	須藤弘二	(慶應義塾大学医学部)
	加藤真吾	(慶應義塾大学医学部)

研究要旨

全国自治体において実施されている肝炎ウイルス検査（B型肝炎、C型肝炎）の情報を包括的に分かりやすく提供することを目的としたウェブサイト「肝炎ウイルス検査マップ」（<http://kensa.kan-en.net>）の作成を行った。本年度は22府県（711自治体）の自治体検査情報の掲載を行った。アクセス解析を行ったところ、平成25年度の総訪問数は94,541件であり、毎月の訪問者数は増加傾向にあった。検索エンジンのキーワード検索順位では「肝炎」と「検査」のAND検索において3箇所の検索エンジンともに2位に表示されており、また、検索エンジン経由の訪問者数が67%を占めた。今後も多くの方に当サイトを活用してもらえよう、自治体検査情報の掲載地域を全国に広げるとともに、情報更新作業を確実にを行い、ユーザーの信頼を得ることで、肝炎ウイルス検査の普及啓発の一端を担いたいと考えている。

A. 研究目的

全国自治体（47都道府県、1,742市区町村）において健康増進事業あるいは特定感染症等検査事業で実施されている肝炎ウイルス検査（B型肝炎、C型肝炎）について、一般の方に分かりやすく包括的に検査情報を発信するためのウェブサイト「肝炎ウイルス検査マップ」（<http://kensa.kan-en.net>）の作成を行い、肝炎ウイルス検査の情報提供や普及啓発を行う。

B. 研究方法

平成24年度に開始された日本肝炎デー（7月28日）に合わせて「肝炎ウイルス検査マッ

プ」の制作を行った（図1）。制作コンセプトとしては、利用者のターゲットは40歳以上、サイトデザインは落ち着いた雰囲気、検索のし易さ、内容の分かりやすさに重点に置いた（図2、図3、図4）。また、40歳以上の方の肝炎ウイルスの感染経路としては医療衛生管理体制の不備によるものも多いことから、本サイトでは性的接触等による感染についての情報は前面に出さないこととした。

内容としては、自治体実施の肝炎ウイルス検査実施情報および「ウイルス性肝炎の基礎知識」、「肝炎ウイルス検査とは？」の基本情報を掲載した。各自治体担当者への検査情報の提供依頼は厚生労働省肝炎対策推進室の協

力を得た。

また、本サイトによる情報提供効果を調査するため、Google Analyticsを用いて訪問者数等のアクセス解析を行った。

C. 研究結果

本年度は、平成 24 年度に掲載を行った 12 都府県 528 自治体の新年度情報更新作業を行うとともに、平成 25 年 9 月 13 日に 1 府 4 県（京都府、兵庫県、岡山県、広島県、熊本県：167 自治体）、11 月 15 日に 5 県（長崎県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県：154 自治体）、12 月 27 日に 4 県（茨城県、栃木県、長野県、岐阜県：193 自治体）、平成 26 年 3 月に 8 県（三重県、滋賀県、奈良県、和歌山県、鳥取県、山口県、香川県、愛媛県：197 県）の自治体情報を追加し、合計で 22 府県 711 自治体の掲載を行った（図 5）。平成 25 年度までに 34 都府県 1239 自治体の検査情報を掲載した。

他サイトにおけるリンク状況は、厚生労働省「肝炎総合対策の推進」サイトおよび MSD 株式会社「C 型肝炎」サイトにリンクを張っていた（図 6、7）。

Google Analytics でのアクセス解析では、平成 25 年度の総訪問数は 94,541 件であり（図 8）、月別では、平成 25 年 12 月は 12,509 件と、毎月増加傾向にあった（図 9）。3 箇所の検索エンジン（Google、Yahoo! JAPAN、bing）におけるキーワード検索順位では、「肝炎」と「検査」の AND 検索において 3 箇所の検索エンジンともに 2 位に表示されていた（図 10）。また、参照元からの訪問数は、検索エンジン（Yahoo! JAPAN、Google）からが多く、全訪問者数の 67%を占めた（図 11）。リンクを張っていただいた厚生労働省「肝炎総合対策の推進」サイトおよび MSD 株式会社「C 型肝炎」サイトからも訪問者が見られた。

D. 考察

本年度は 22 府県 711 自治体の検査情報の掲載を行い、研究年度の 2 箇年で 34 都府県 1239 自治体の掲載を行うことができた。しかしながら、肝炎ウイルス検査事業は健康増進事業および特定感染症等検査事業の 2 本柱で実施されており、検査は都道府県および市区町村の全国ほぼすべての自治体で行われていること、また、検査実施場所も保健所、保健センターあるいは委託医療機関など多岐に亘っていることから、情報収集およびサイト構築に予想以上の時間が掛かった。現時点で 13 県（北海道、青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、群馬県、富山県、石川県、福井県、島根県、徳島県、高知県）が未掲載となっている。次年度以降、全国すべての自治体情報を掲載し、本格的なサイト運用ができるような体制を構築する必要がある。

検索エンジンにおける関連キーワード検索では、本サイトが上位に表示されるようになり、厚生労働省「肝炎総合対策の推進」サイトおよび MSD 株式会社「C 型肝炎」サイトにもリンクを張っていただいたことから、アクセス数が増加傾向にある。

今後も多くの方に当サイトを活用してもらえよう、自治体検査情報の掲載地域を全国に広げるとともに、情報更新作業を確実にを行い、ユーザーの信頼を得ることで、肝炎ウイルス検査の普及啓発の一端を担いたいと考えている。

E. 研究発表

論文発表

1. Kondo M, Lemey P, Sano T, Itoda I, Yoshimura Y, Sagara H, Tachikawa N, Yamanaka K, Iwamuro S, Matano T, Imai M, Kato S, and Takebe Y.: Emergence in Japan of an HIV-1 variant associated with MSM transmission in China: First indication for

the international dissemination of the Chinese MSM lineage. : J Virol. 2013;87: 5351-5361.

2. 佐野貴子, 近藤真規子, 吉村幸浩, 立川夏夫, 相楽裕子, 井戸田一朗, 山中晃, 須藤弘二, 加藤真吾, 今井光信 : HIV-1 p24 抗原検出感度が向上した改良型 HIV 抗原抗体同時検出試薬の検討. 感染症学雑誌 87(4) :415-423, 2013.
3. 井戸田一朗, 星野慎二, 沢田貴志, 佐野貴子, 上田敦久, 加藤真吾, 今井光信 : コミュニティーセンター「かながわレインボーセンターSHIP」の夜間 HIV/STIs 即日検査を受けた MSM (men who have sex with men) の特徴及び罹患率. 日本公衆衛生学雑誌 60(5) :253-261, 2013.

学会発表

1. 佐野貴子, 井戸田一朗, 川畑拓也, 千々和勝己, 須藤弘二, 近藤真規子, 今井光信, 加藤真吾, 研究協力民間クリニックの先生方 : 民間クリニックにおける HIV 即日検査の導入支援および結果解析. 第 27 日本エイズ学会学術集会・総会. (平成 25 年 11 月 20 日-11 月 22 日, 熊本)
2. 須藤弘二, 佐野貴子, 近藤真規子, 今井光信, 加藤真吾 : HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査 (2012). 第 27 日本エイズ学会学術集会・総会. (平成 25 年 11 月 20 日-11 月 22 日, 熊本)
3. 近藤真規子, 佐野貴子, 井戸田一朗, 吉村幸浩, 須藤弘二, 立川夏夫, 山中晃, 岩室紳也, 今井光信, 武部豊, 加藤真吾 : 中国の MSM 間で大流行している HIV-1 CRF01_AE variant の日本への流入. 第 27 日本エイズ学会学術集会・総会. (平成 25 年 11 月 20 日-11 月 22 日, 熊本)
4. 井戸田一朗, 星野慎二, 佐野貴子, 近藤真規子, 金子典代 : ハッテン場における HIV 感染リスク低減に向けた意識行動調査. 第 27 日本エイズ学会学術集会・総会. (平成 25 年 11 月 20 日-11 月 22 日, 熊本)
5. 矢永由里子, 山田里佳, 谷口晴記, 千田時広, 佐野貴子, 喜多恒和, 外川正生, 吉野直人, 大島教子, 明城光三, 稲葉憲之, 和田裕一, 塚原優己 : 妊婦 HIV スクリーニング検査の調査による検査時対応の現状と課題の検討. 第 27 日本エイズ学会学術集会・総会. (平成 25 年 11 月 20 日-11 月 22 日, 熊本)
6. 山田里佳, 谷口晴記, 千田時広, 矢永由里子, 佐野貴子, 明城光三, 喜多恒和, 外川正生, 吉野直人, 大島教子, 和田裕一, 稲葉憲之, 塚原優己 : 妊婦 HIV スクリーニング検査の偽陽性に関する調査-2004 年調査と比較して-. 第 27 日本エイズ学会学術集会・総会. (平成 25 年 11 月 20 日-11 月 22 日, 熊本)

図1

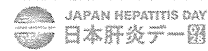
ホームページ「肝炎ウイルス検査マップ」

7月28日 World Hepatitis Day

(2010年にWHOが世界肝炎デーと制定)



→ 2012年、日本でも7月28日を日本肝炎デーと制定
本年度、第1回日本肝炎デーを実施、1都3県(東京都、
神奈川県、千葉県、埼玉県) においてイベントを実施



→ それに合わせて、イベント紹介サイト
(知って、肝炎?! <http://kan-en.net/>) の開設とともに、
自治体での肝炎ウイルス検査を紹介するサイト
「肝炎ウイルス検査マップ」を研究班で作成



図2

制作コンセプト

- ターゲット: 40歳以上
 - B型肝炎、C型肝炎キャリア 350万人(8割は60歳以上)
10年前から40歳以上の健診事業を行っているが
検査に取り込めていないとの指摘あり
 - HPデザインはイラストでの表現をあまり過剰にせず、
落ち着いた雰囲気でも分かりやすさを重点とする
- 性感染症であることを前面に出さない
 - 「HIV検査・相談マップ」とはデザインを切り離して
サイトを構成する



図3

検索画面

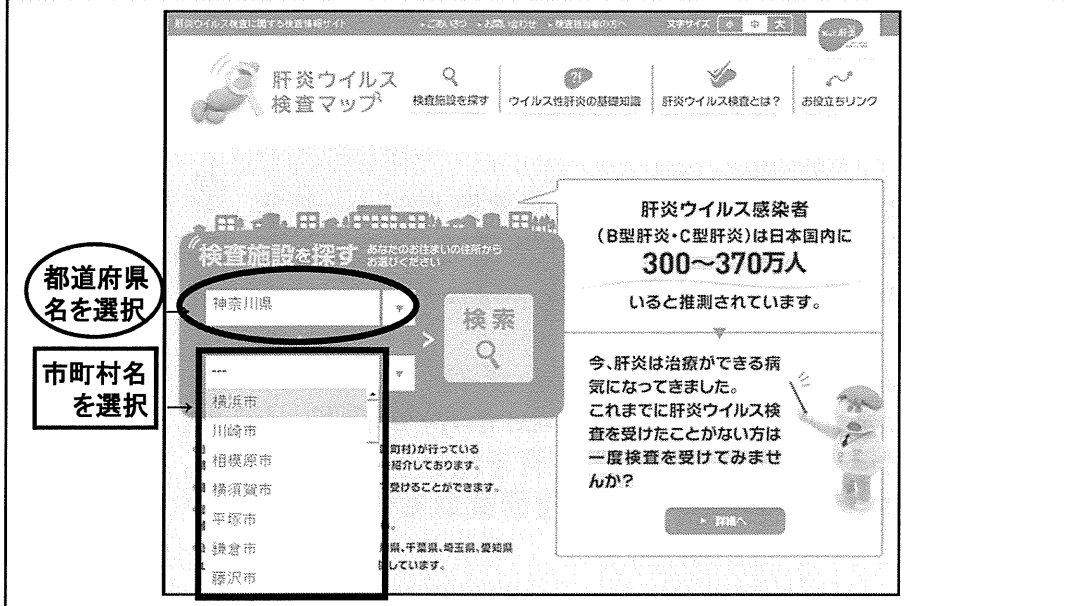


図4

検索結果表示

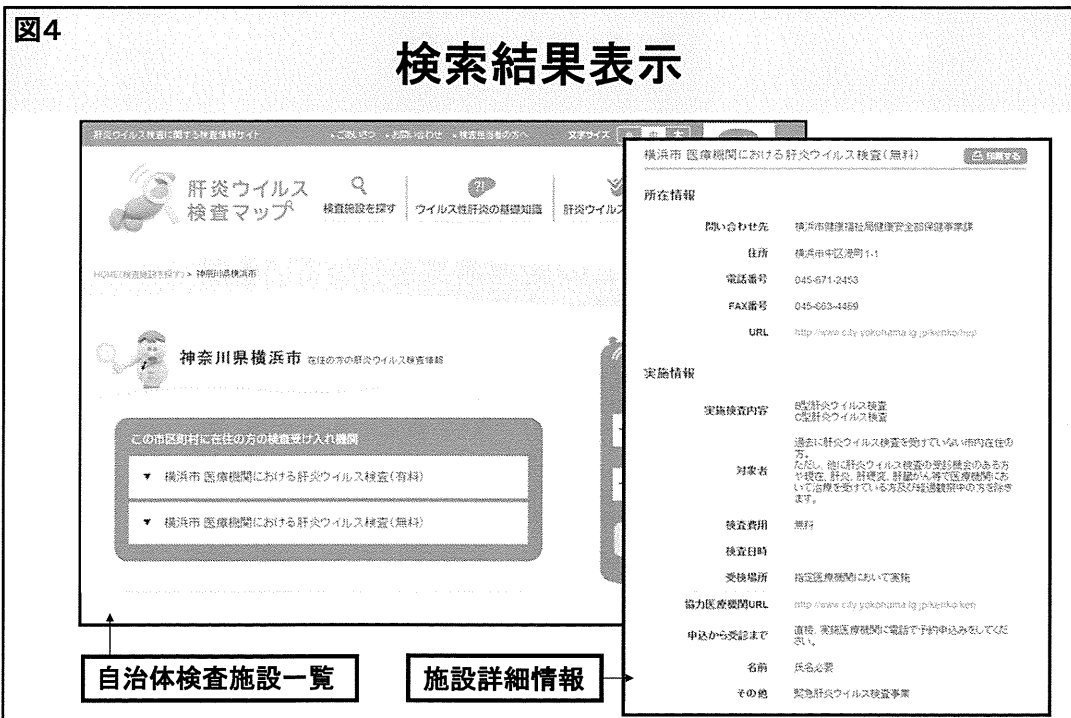


図5

平成25年度 情報掲載作業

◇平成25年度: 22府県711自治体の情報を掲載

9月13日 : 1府4県 (京都府、兵庫県、岡山県、広島県、熊本県)

11月15日 : 5県 (長崎県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県)

12月27日 : 4県 (茨城県、栃木県、長野県、岐阜県)

3月下旬 : 8県 (三重県、滋賀県、奈良県、和歌山県、鳥取県、山口県、香川県、愛媛県)

未掲載: 北海道、青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、群馬県、富山県、石川県、福井県、島根県、徳島県、高知県

図6

厚生労働省「肝炎総合対策の推進」サイトへのリンク

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou09/index.html>



文字サイズの変更: 標準 大 特大

画像検索機能やブックマークはこちら 国民参加の場

肝炎総合対策の推進

[TOP](#)
[肝炎とは](#)
[肝炎ウイルス検査](#)
[診断体制](#)
[医療費助成](#)
[研究事業](#)
[普及啓発](#)

肝炎ウイルス検査

- ◆ 保健所における肝炎ウイルス検査の受診勧奨と検査体制の整備

保健所及び各自治体が委託する医療機関での無料検査を引続き実施するとともに、ニーズに応じた出張型検査の取組(平成23年度新規採血事業メニュー)を推進します。

※検査の日程や場所、手続などが、自治体によって異なりますので、お住まいの保健所等にお問い合わせてください。
- ◆ 市町村及び保健所等における肝炎ウイルス検査等の実施

肝炎ウイルス検診(健康増進事業)のより一層の受診促進を図るため、特定の年齢の方に対する個別勧奨による検査の取組(平成23年度新規採血事業メニュー)を推進します。

※検査の日程や場所、手続などが、自治体によって異なりますので、お住まいの市町村等にお問い合わせてください。また、加入されている医療保険の保険者等が実施している検査も受けられる場合がありますので、詳しくは保険者等へお問い合わせください。
- ◆ 各自治体の「肝炎ウイルス検査」についての取組

お住まいの地域の情報を確認する際にお役立てください。

(参考)

各自治体の「肝炎ウイルス検査」についての取組

※肝炎ウイルス検査マップ(肝炎ウイルス検査に関する検査情報サイト)中

※厚生労働科学研究費補助金(肝炎がんなどの疾患分野)の医療の活用化研究「肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究」により作成。

[肝炎](#)
 [hepatitis](#)
 [相談窓口](#)
 [GSA](#)
 [肝炎について知りたいはこちら](#)
 [資料集](#)
 [13 肝炎ウイルス検査](#)
 [14 検査方法など](#)
 [15 肝炎検査結果と検査](#)
 [16 肝炎検査結果の活用](#)
 [17 検査結果](#)
 [関連リンク集](#)
 [検査センター検索](#)

PDFファイルを見るためには、Adobe Reader のインストールが必要です。Adobe Reader を無料でダウンロードしてください。

肝炎ウイルス検査マップのリンク

図7 MSD 「C型肝炎」サイトへのリンク <http://www.c-kan.net/>

▶ 外部サイトリンク：肝炎ウイルス検査マップのリンク

図8

アクセス解析①

(2012年7月17日～2013年12月31日)

全訪問数 104,584件

2012年7月17日～12月31日	10,043件
2013年1月1日～12月31日	94,541件

<日別訪問数>

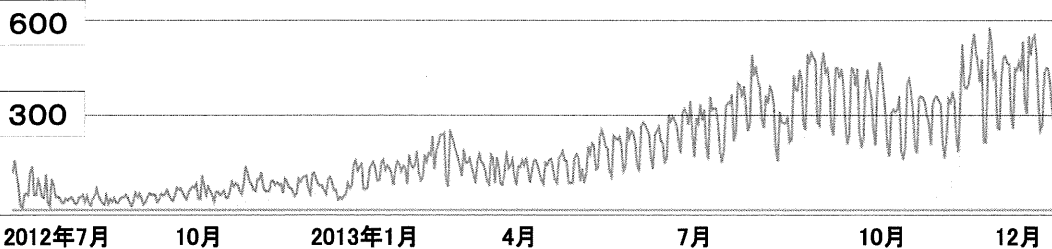


図9

アクセス解析②

<月別訪問数>

(2012年7月17日～2013年12月31日)

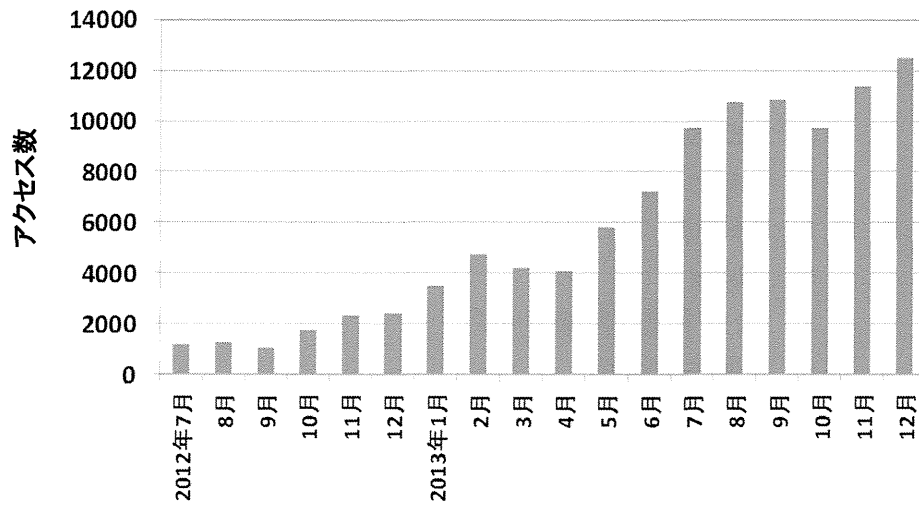


図10

アクセス解析③

<検索エンジン表示順位(2013年12月)>

検索エンジン	肝炎	肝炎 検査
Google	5	2
Yahoo! JAPAN	3	2
bing	38	2

図11

アクセス解析④

(2012年7月17日～2013年12月31日)

<参照元>

1	Yahoo! JAPAN	35,274
2	Google	33,001
3	Direct access	16,626
4	知って肝炎？！	5,873
5	ドコモ	2,777
6	bing	1,716
7	HIV検査・相談マップ	1,668
8	厚生労働省	1,111
9	日本肝炎デー	945
10	c-Kan(MSD)	729

3. 保健所等における肝炎ウイルス検査のガイドラインの作成に関する研究

研究分担者 村田一素（国立国際医療研究センター国府台病院）

研究要旨

保健所における肝炎ウイルス検査のマニュアル作成に関して基礎的検討を行った。献血、健康増進事業で行う節目検診、保健所において1年間で検出される肝炎ウイルス検査陽性者数、陽性率を解析した。解析によると保健所における検査は節目検診よりも拾い出し人数は少ないが陽性率は高く、保健所は効率的に陽性者を拾い出すことができる機関であることが示された。また、拾い出しに効率的な保健所を国民に知らしめ、そのことによる受検者増加に保健所が対応できるよう、「保健所等における肝炎ウイルス検査相談マニュアル」を作成した。

A. 研究目的

最近の研究の進歩に伴い、ウイルス性肝炎の診断・治療は向上している。B型慢性肝炎の治療は、核酸アナログ製剤の登場によりウイルス量および肝障害のコントロールが良好となり、肝硬変、肝がんへの進展が抑制できるようになってきた。C型慢性肝炎の治療も、高率にウイルス排除が可能となる経口剤が開発され、将来的には本薬剤にてほとんどの患者が治癒することが可能となると考えられている。

しかし、わが国には感染を知らずに潜在しているB型肝炎ウイルス（HBV）キャリアは約90万人、C型肝炎ウイルス（HCV）キャリアは約80万人と推定されている。

これらの「感染を知らずに潜在するキャリア症例」を医療機関に受診させることが出来れば、わが国のウイルス性肝炎に対し、大きく貢献できると考えられる。

そこで、特定感染症検査等事業による保健所における肝炎ウイルス検査の実情を把握し、さらに保健所等における肝炎ウイルス検査数を底上げするために本研究を行う。

B. 研究方法

1. 2010年度統計を用いて、A県B市保健所と同保健所管轄であるB市における節目検診におけるHBs抗原陽性数、HCV抗体陽性数およびそれらの陽性率を比較検討する。また、参考としてA県内で2011年1月～12月に献血にて採取された検体の同陽性数、陽性率を調べる。

2. 班員および研究協力者に各研究分野に関連する項目について執筆いただき、「保健所等における肝炎ウイルス検査相談マニュアル」を作成し、複数回の編集会議を経て出版への準備を行う。

C. 研究結果

1. 節目検診におけるHBs抗原およびHCV抗体陽性者は、それぞれ117, 134名に対し、保健所におけるそれは、ともに4例であった（図1）。しかし、陽性率で検討すると節目検診では0.8%、0.92%に対し、保健所ではともに2.4%であった（図2）。一方、県内の献血では、その陽性者はそれぞれ84, 80例で、陽性率はともに0.07%と定率であった（図1、2）。

2. 「保健所等における肝炎ウイルス検査相談マニュアル」編集に際し、新規採用保健所職

員でも主旨を理解し、かつ円滑に検診が出来るようにする、ことを基本姿勢とした。また、上記研究のように保健所は効率的に陽性者を拾い出す機関であるにも関わらず、無料検診を行っている事実を知る国民が少ないことから、保健所からの積極的な情報発信を促進するように「事業広報」の項目を充実させた。第1回編集委員会(平成25年8月3日)にて担当執筆者およびその執筆内容を決定した。各担当執筆者からの初稿を第2回編集委員会(平成25年10月12日)にて討論・修正後、第3回編集委員会(平成25年11月30日)にて修正版の最終討論を行った。

D. 考察

保健所におけるHBs抗原およびHCV抗体陽性者の拾い出し人数は節目検診と比較して少ないものの、その陽性率は高かったことから、保健所における肝炎ウイルス検査は効率的な拾い出しには有効であると考えられた。

しかし、現状では保健所で肝炎ウイルス無料検診を行っていることを知る国民は少ない。そこで、保健所等における肝炎ウイルス検査の充実化を目的に「保健所等における肝炎ウイルス検査相談マニュアル」を作成した。特に事業広報活動の活性化を目指し、同項目を充実させた。そのことにより、受検者数が増加して保健所内の混乱が生じる可能性が危惧されるため、本マニュアルでは新規採用者であっても理解できるように平易な文章を心がけて作成した。現在、最終稿は完成しており、最終確認が済み次第、全国の保健所に配布する予定である。将来的には、本マニュアルを実際に使用した保健所よりアンケート調査を実施し、さらに使いやすいマニュアルに改訂していく必要がある。

E. 結論

「保健所等における肝炎ウイルス検査相談

マニュアル」を作成した。

F. 研究発表

論文発表

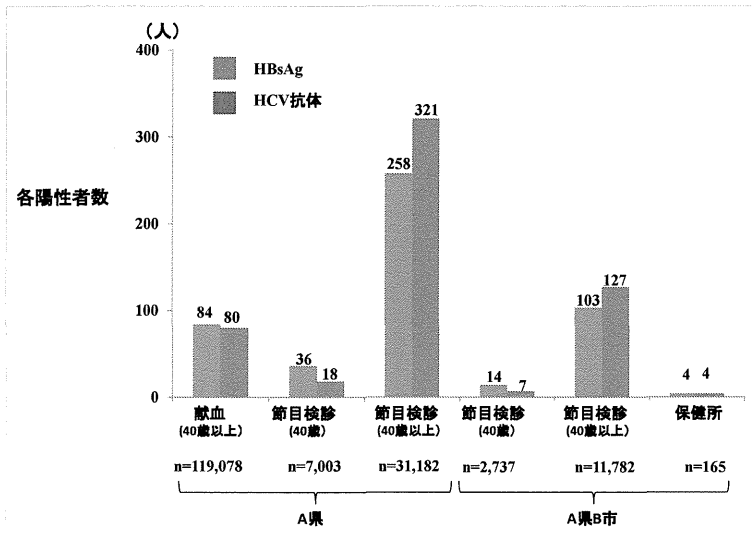
1. Yoshio S, Kanto T, Kuroda S, Matsubara T, Higashitani K, Kakita N, Ishida H, Hiramatsu N, Nagano H, Sugiyama M, **Murata K**, Fukuhara T, Matsuura Y, Hayashi N, Mizokami M, Takehara T. Human BDCA3(+) dendritic cells are a potent producer of IFN- λ in response to hepatitis C virus. *Hepatology* 2013;57:1705-1715.
2. **村田一素**、溝上雅史: 肝炎・肝癌の遺伝子研究. *Annual Review 消化器*, 中外医学社. P99-104, 2013.
3. **村田一素**、正木尚彦. ウイルス肝炎マーカーの選択と読み方. *Medical Practice* 2013;30 (2):231-235.
4. **村田一素**. <総説>B型肝炎ウイルス感染における宿主免疫応答の重要性ー特にNKT細胞の関与についてー. *肝臓* 2013;54:7-18.
5. **村田一素**、正木尚彦. C型肝炎の自然予後ー無治療住民検診における長期予後の検討ー. *肝胆膵* 2013;66:417-422.
6. **Murata K**, Sugiyama M, Kimura T, Yoshio S, Kanto T, Kirikae I, Saito H, Aoki Y, Hiramane S, Matsui T, Ito K, Korenaga M, Imamura M, Masaki N, Mizokami M. Ex vivo induction of IFN- γ by a TLR7 agonist determines response to Peg-IFN/RBV therapy in chronic hepatitis C patients. *J Gastroenterol* 2014;49:126-137.
7. 松井哲平、**村田一素**、金子正大、尾上淑子、小飯塚仁彦、今村雅俊、正木尚彦、石田 剛、溝上雅史、上村直実. カプセル内視鏡にて経過観察が可能であった好酸球性腸炎の一例. *日本消化器*

- 内視鏡学会雑誌 2013;55:3394-3400.
8. 竹田 努、**村田一素**、池田真美、茶谷成、小林正典、青木孝彦、松井哲平、是永匡紹、今村雅俊、正木尚彦、青木洋一郎、尾上淑子、矢田智之、小飯塚仁彦、青柳信嘉、石田 剛、渡辺純夫、上村直実、溝上雅史. 下血を契機に診断された肝原発腺扁平上皮癌大腸浸潤の一例. 日本消化器病学会雑誌 2013;110:1959-1967.
 9. **村田一素**. *In vitro* の系からみた PIVKA-II と脈管侵襲. 肝胆膵 2013;66:909-915.
 10. **村田一素**、溝上雅史: 専門医に聞くーB型肝炎の治療ー. HIV 感染症と AIDS の治療 2013;4:58-62
 11. **村田一素**、正木尚彦: 腹痛のない高齢者の肝胆道系酵素上昇. 臨床消化器内科 2013;28:1191-1195.
 12. **村田一素**、溝上雅史: B型慢性肝炎診療 up-to-date. 診断と治療 2013;9:1271-1275.
 13. Takeda T, **Murata K**, Chatani N, Aoki Y, Yada T, Aoki Y, Koizuka H, Korenaga M, Imamura M, Kanto T, Masaki N, Ishida T, Watanabe S, Mizokami M, Uemura N. Scirrhous colonic metastasis from lobular carcinoma of breast. Clin J Gastroenterol 2013;6:291-294.
 14. Ito K, Yotsuyanagi H, Yatsuhashi H, Karino Y, Takikawa Y, Saito T, Arase Y, Imazeki F, Kurosaki M, Umemura T, Ichida T, Toyoda H, Yoneda M, Mita E, Yamamoto K, Michitaka K, Maeshiro T, Tanuma J, Tanaka Y, Sugiyama M, **Murata K**, Masaki N, Mizokami M, and the Japanese AHB Study Group. Risk factors for long-term persistence of serum hepatitis B surface antigen following acute hepatitis B virus infection in Japanese adults. Hepatology 2013;
 15. **村田一素**. PIVKA-II の産生機序と癌転移能との関連. ウイルス肝炎・肝癌の病態と治療(第29回犬山シンポジウム)、p107-p113, 2013, 犬山シンポジウム記録刊行会.
 16. **村田一素**、正木尚彦: 黄疸が遷延した国内感染 E 型急性肝炎. 臨床消化器内科 2013;28:1656-1661.
 17. Watashi K, Liang G, Iwamoto M, Marusawa H, Uchida N, Daito T, Kitamura K, Muramatsu M, Ohashi H, Kiyohara T, Suzuki R, Li J, Tong S, Tanaka Y, **Murata K**, Aizaki H, Wakita T. Interleukin-1 and tumor necrosis factor-alpha trigger restriction of hepatitis B virus infection via a cytidine deaminase AID. J Biol Chem 2013;288:31715-31727.
 18. **村田一素**: ポリメラーゼ阻害剤: C 型肝炎治療 2014: 経口抗ウイルス薬時代の到来. 肝胆膵 2013;67:924-927.
- 学会発表
1. 竹田 努、**村田一素**、青木孝彦、茶谷成、松井哲平、是永匡紹、今村雅俊、正木尚彦、溝上雅史. ソラフェニブを含む集学的治療にてコントロール良好なアルコール性肝癌の1例. 第7回 日本肝がん分子標的治療研究会(平成25年 1月19日、じゅうろくプラザ、岐阜)
 2. 池田和弘、竹田 努、茶谷成、松井哲平、是永紹匡、今村雅俊、**村田一素**、正木尚彦、溝上雅史、増田晃一、青柳信嘉、青木洋一郎、尾上淑子、矢田智之、小飯塚仁彦、上村直実、石田 剛. 便秘を契機に術前診断された乳癌大腸転移の一例. 第323回日本消化器病学会関東支部例会

- (平成25年 2月23日、海運クラブ、東京)
3. 鈴木桂悟、竹田 努、村田一素、茶谷 成、松井哲平、青木孝彦、是永紹匡、今村雅俊、正木尚彦、大久保恒希、青木洋一郎、尾上淑子、矢田智之、小飯塚仁彦、青柳信嘉、石田 剛、溝上雅史、上村直実. 繰り返す急性膵炎を契機に診断され、切除された膵管内乳頭粘液性腫瘍の1例. 第324回日本消化器病学会関東支部例会(平成25年 4月20日、海運クラブ、東京)
 4. 村田一素、T. Jake Liang、溝上雅史. B型急性肝炎におけるnatural killer T (NKT)細胞活性化機序. 第49回肝臓学会総会(平成25年6月6日~7日、京王プラザホテル、東京)
 5. 是永圭子、溝上雅史、是永匡紹、今村雅俊、茶谷 成、竹田 努、村田一素、正木尚彦. C型慢性肝炎の経過観察におけるvirtual Touch Tissue Quantificationの有用性. (平成25年6月6日~7日、京王プラザホテル、東京)
 6. 竹田 努、村田一素、向出雅一、切替郁枝、武藤 純、平峯 智、青木孝彦、松井哲平、是永匡紹、今村雅俊、正木尚彦、渡辺純夫、溝上雅史. 新規開発した高感度HBV-DNA検出装置による各種肝疾患患者のHBV-DNAの陽性率. (平成25年6月6日~7日、京王プラザホテル、東京)
 7. 是永匡紹、是永圭子、竹田 努、山極洋子、今村雅俊、村田一素、正木尚彦、溝上雅史. 慢性肝疾患におけるamino acid imbalanceとインスリン抵抗性・酸化ストレスのクロストーク. (平成25年6月6日~7日、京王プラザホテル、東京)
 8. Murata K, Sugiyama M, Kimura T, Yoshio S, Kanto T, Asano M, Aoki Y, Takeda T, Korenaga M, Imamura M, Masaki N, Mizokami M. Ex vivo induction of IFN- γ by a TLR7 agonist determines response to Peg-IFN/RBV therapy in chronic hepatitis C patients. The 19th Annual Meeting of the Korean Association for the Study of the Liver. (June 14-15, 2013, Sheraton Grande WalkerHill, Seoul)
 9. Hiramine S, Sugiyama M, Furusyo N, Nishida N, Takeda T, Aoki Y, Korenaga M, Murata K, Masaki N, Hayashi J and Mizokami M. Length of TA Repeat near *IL28B* Could Improve The Predictive Value for HCV Spontaneous Clearance with *IL28B* SNPs. ID week 2013 (Oct 2-6, 2013, San Francisco)
 10. Aoki Y, Murata K, Sugiyama M, Kimura T, Takeda T, Yoshio S, Yamagiwa Y, Korenaga M, Imamura M, Kanto T, Masaki N, Mizokami M. Pre-treatment levels of serum IFN- γ more accurately predict sustained virological response by pegylated interferon/ribavirin therapy than *IL28B* genotyping in chronic hepatitis C patients. The 64th annual meeting of the American association for the study of liver diseases. (Nov 1-5, 2013, Washington DC)
 11. Takeda T, Murata K, Sugiyama M, Kimura T, Yoshihiko Aoki, Yoshio S, Nishida N, Yamagiwa Y, Korenaga M, Imamura M, Kanto T, Masaki N, Mizokami M. Genetic variation of *IL28B* and serum levels of IFN- γ does not affect clinical outcome of hepatitis B virus infection. The 64th annual meeting of the American association for the study of liver diseases. (Nov 1-5, 2013, Washington DC)
 12. Ito K, Yotsuyanagi H, Yatsunami H, Karino Y, Takikawa Y, Saito T, Arase Y, Imazeki F, Kurosaki M, Umemura T,

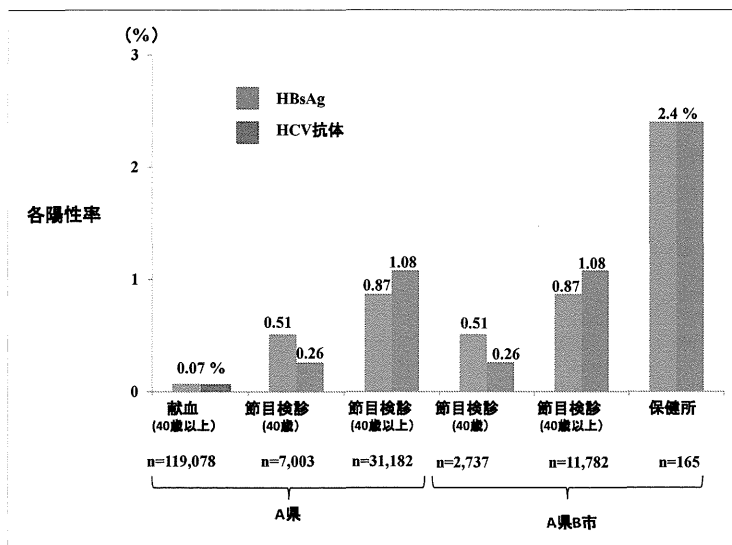
- Ichida T, Toyoda T, Yoneda M, Mita E, Yamamoto K, Michitaka K, Maeshiro T, Tanuma J, Tanaka Y, Sugiyama M, **Murata K**, Masaki N, Mizokami M. Risk factors for long-term persistence of serum hepatitis B surface antigen following acute hepatitis B virus infection in Japanese adults. The 64th annual meeting of the American association for the study of liver diseases. (Nov 1-5, 2013, Washington DC)
13. Sugiyama M, Hiramane S, Furusho N, Ido A, Tsubouchi H, Watanabe H, Ueno Y, Korenaga M, **Murata K**, Masaki N, Mizokami M. Polymorphisms consisting of (TA)_n dinucleotide repeat near IL28B gene could improve the predictive value for HCV spontaneous clearance with IL28B SNPs. The 64th annual meeting of the American association for the study of liver diseases. (Nov 1-5, 2013, Washington DC)
14. Yoshihiko Aoki, **Murata K**, Sugiyama M, Kimura T, Takeda T, Yoshio S, Nishida N, Yamagiwa Y, Korenaga M, Imamura M, Kanto T, Masaki N, Jong-Hon Kang, Mizokami M. Significant roles of IFN- γ 3 with reciprocal levels in serum and ex vivo stimulated PBMC in chronic hepatitis C. The 64th annual meeting of the American association for the study of liver diseases. (Nov 1-5, 2013, Washington DC)
15. **Murata K**, Sugiyama M, Kimura T, Takeda T, Yoshio S, Aoki Y, Nishida N, Yamagiwa Y, Korenaga M, Imamura M, Kanto T, Masaki N, Mizokami M. Number of peripheral BDCA4⁺dendritic cells determines the response to pegylated interferon/ribavirin therapy in chronic hepatitis C patients. The 64th annual meeting of the American association for the study of liver diseases. (Nov 1-5, 2013, Washington DC)
16. Yoshio S, Kanto T, Matsubara T, Sugiyama M, **Murata K**, Mizokami M, Hayashi N, Takehara T. Human BDCA3+dendritic cells as a potent interferon- γ 3 producer and an enhancer of helper T cell and natural killer cell responsive to hepatitis C virus. The 64th annual meeting of the American association for the study of liver diseases. (Nov 1-5, 2013, Washington DC)
17. Yoshio S, Kanto T, Matsubara T, Sugiyama M, **Murata K**, Fukuhara T, Matsuura Y, Mizokami M, Hayashi N, Takehara T. Human BDCA3+DC contribute to the induction of intrahepatic ISGs as a potent IFN- γ 3 producer in HCV infection. The 64th annual meeting of the American association for the study of liver diseases. (Nov 1-5, 2013, Washington DC)

各検査機会におけるHBsAg、anti-HCV陽性者数



献血：A県内で2011年1月～12月に採取された検体。
他は2010年度統計より。

各検査機会におけるHBsAg陽性率、anti-HCV陽性率



献血：A県内で2011年1月～12月に採取された検体。
他は2010年度統計より。

4. 感染症発生動向調査から見た B 型肝炎の発生状況、2013 年

研究分担者 岡部信彦 (川崎市健康安全研究所)
研究協力者 山岸拓也 (国立感染症研究所 感染症疫学センター)
砂川富正 (国立感染症研究所 感染症疫学センター)
多田有希 (国立感染症研究所 感染症疫学センター)

研究要旨

B型肝炎は近年性的接触による感染が増加してきており、かつての母子感染や輸血による感染が多かった以前の状況から変化してきている。B型肝炎対策の検査体制整備や予防啓発に関する対策の立案や評価に用いる情報を提供するため、感染症発生動向調査と人口動態統計を用い、B型肝炎の発生状況を調べた。2013年の年間報告数は232例、人口10万人当たりの報告数(罹患率)は3.1であり、2010年の報告数174、罹患率2.2を境に増加している。性別では男性が83%と大半を占めており、その割合は増加傾向である。男女とも20歳代が最も罹患率が高く、罹患率は20-50歳代で増加傾向である。感染経路は、不明を除く184例中177例(96%)が性的接触であり、男性の異性間・同性間性的接触が多く、かつ増加傾向にある。2013年に母子感染は1件認められており、劇症肝炎は3例報告され、うち2名が死亡していた。2013年の増加傾向が国内患者の真の増加を表している可能性があるが、感染症発生動向調査は過小評価といわれており、対策の立案、評価のための発生状況の正確な把握のためには、地方自治体担当者や臨床医へサーベイランス情報の還元と届出に関する周知をより一層図っていく必要がある。

A. 研究目的

B型肝炎は母子感染対策や輸血関連感染対策が進み、母子感染例や輸血による感染が減少した。一方で性的接触による感染が増加してきており、母子感染、医療関連感染の対策に加え、性感染症としての対策の重要性が増してきている。

本研究では、B型肝炎の検査体制整備や予防啓発に関する対策の立案や評価のための基礎資料の提供のため、感染症発生動向調査と人口動態統計を用いB型肝炎の発生状況を調べた。

B. 研究方法

B型肝炎は、感染症法施行の1999年4月以降、4類感染症の「急性ウイルス性肝炎」(A, B, C, D, E型, その他, 不明)として、2003

年11月の改正感染症法では、5類感染症の「ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)」として感染症発生動向調査で全数把握されている。この中でB型肝炎は慢性肝炎、無症候性キャリアおよびこれらの急性増悪例以外の急性感染例が対象となっている。感染症発生動向調査については、1999~2012年年報のウイルス性肝炎のデータの内、B型肝炎のデータを使用した。2013年分に関しては2014年1月9日時点での暫定報を使用した。人口については、2000、2005、2010年の国勢調査、及びそれ以外の年に関しては人口動態統計のデータを使用した。

倫理面への配慮：B型肝炎は4類感染症であり、感染症発生動向調査で個人名や住所の情報は集められておらず、個人を特定できる情